

編集後記

斎藤隆三新編集委員長が1月号のeditorialで述べられたように、本誌は今年創刊40周年を迎える。これまで本誌の編集に携わった諸先輩および編集部の方々に敬意を表します。加えて本誌を支えてくれた数多い読者や、臨床例、topicsなどを寄稿していただいた諸先生方にも心から感謝している。今後は斎藤先生を中心に、馬場直子先生を加えたメンバーで新しい企画を組み込み、多くの先生方に支持される専門誌を目指していきたい。

本誌の歴代の編集委員長は、初代安田利顕先生、2代目船橋俊行先生、3代目西山茂夫先生、そして4代目の西岡清先生がこの度勇退された。西岡先生は世界的に活躍する優れた研究者であり、多くの著書を残された。そして優秀な若き指導者を全国に輩出している。学問に対する厳しさと探究心の鋭さは、研究成果をみれば非の打ちどころがない。加えて病院長をはじめとする多くの公的な立場で、大きな足跡を残された。私は北里大学で指導を受ける機会に恵まれ、ライフワークであるアトピー性皮膚炎の臨床研究の基礎や着眼点など丁寧に指導いただいた。最高の指導者であり尊敬する恩師である。『皮膚病診療』の顔として本誌をこよなく愛し、全国の読者に日常診療に役立つ特集号や最近のトピックス、新しい情報などを発信された。今後は新春放談などにお招きして、貴重なご意見をいただく予定である。

今月号のテーマは「腋窩の皮膚病」である。治療やtopicsの欄で取り上げた多汗症の治療や化膿性汗腺炎は最近の話題である。日医の医療事故調査委員会で、腋臭症に電磁波の熱エネルギーで汗腺を破壊する治療法により神経損傷が生じた案件があった。新規治療法の開発や導入は治療の幅を広げる。従来の治療法に比してメリットやデメリットをよく理解したうえで、十分な手技で危険を回避していただきたい。説明責任も問われる時代である。(H.M.)

次号予告

Vol.40, No.6

特集 色素沈着を伴う皮膚病

◆editorial

向井 秀樹

◆topics

当科ヒドロキシクロロキン(HCQ)使用30例の臨床的検討

津村 協子

◆治療

顔面の限局性色素沈着(シミ)に対するレーザー・光治療の実例

須賀 康

◆臨床例

色素沈着型日光角化症

宮本花里奈ほか

骨髓低形成を伴った成人型肥満細胞症

福田 浩孝ほか

トシリズマブによる長期間の治療効果を観察し得た多中心性

Castleman病に伴う皮膚形質細胞増多症 寒川 愛美ほか

Blaschko線に沿った片側性に生じたashy dermatosis

羽瀧麻理亜、五十嵐敦之

サンシシによる色素沈着型薬疹の3例

影山 玲子ほか

ハーボニー内服開始1週後に生じた色素性痒疹 音山あずさほか

色素沈着を伴ったバルトリン腺嚢胞 向井 美穂ほか

点状集簇性の分布を示した塩酸ミノサイクリンによる

色素沈着症 荒尾 和哉ほか

ヒドロキシクロロキン硫酸塩が奏効した

播種状慢性円板状エリテマトーデス 杉山茉莉子ほか

一過性新生児膿疱黒皮症 村田眞理子ほか

pigmented fungiform papillae of the tongueの家族例

村本 睦子ほか

黒褐色斑のみが認められたBowenoid papulosis

大草 健弘ほか

脱感作したアザシチジンによる固定薬疹

大澤 梨佐ほか

phyllid hypermelanosis

土山健一郎、相場 節也

下腿に生じた環状扁平苔癬

高橋 美咲ほか

◆学会ハイライト

第69回日本皮膚科学会西部支部学術大会を終えて

尹 浩信

◆皮心伝心

血管腫と血管奇形

神人 正寿

◆蝶の博物詩

西山 茂夫

◆診察室の四季

斎藤 隆三

◆皮膚科のトリビア

浅井 俊弥

◆声(質疑・応答を歓迎します)

皮膚病診療 Vol. 40, No.5(2018)

平成30年4月25日印刷

平成30年5月1日発行

1部定価2,800円(本体)+税 送料82円

年ぎめ予約購読料39,000円(本体)+税

発売所/丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル6階

TEL 03-3512-3256(代表・受注センター) FAX 03-3512-3270

編集人 斎藤 隆三

発行人 山田 淳史

発行所 株式会社協和企画

〒105-8320 東京都港区虎ノ門1-10-5 3階

電話:03-6838-9200(代) 03-6838-9225(編集)

振替口座:00190-0-36746

印刷所 株式会社 恒陽社印刷所

ご購入ご希望の方は直接弊社もしくは書店までお申し込みください。

© 株式会社 協和企画 2018年

・JCOPY <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。